

中地域交流ループの概要

2026年4月1日

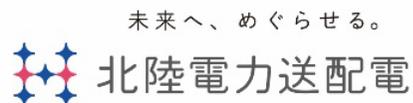
中部電力パワーグリッド株式会社

北陸電力送配電株式会社

関西電力送配電株式会社



中部電力パワーグリッド



未来へ、めぐるせる。

北陸電力送配電



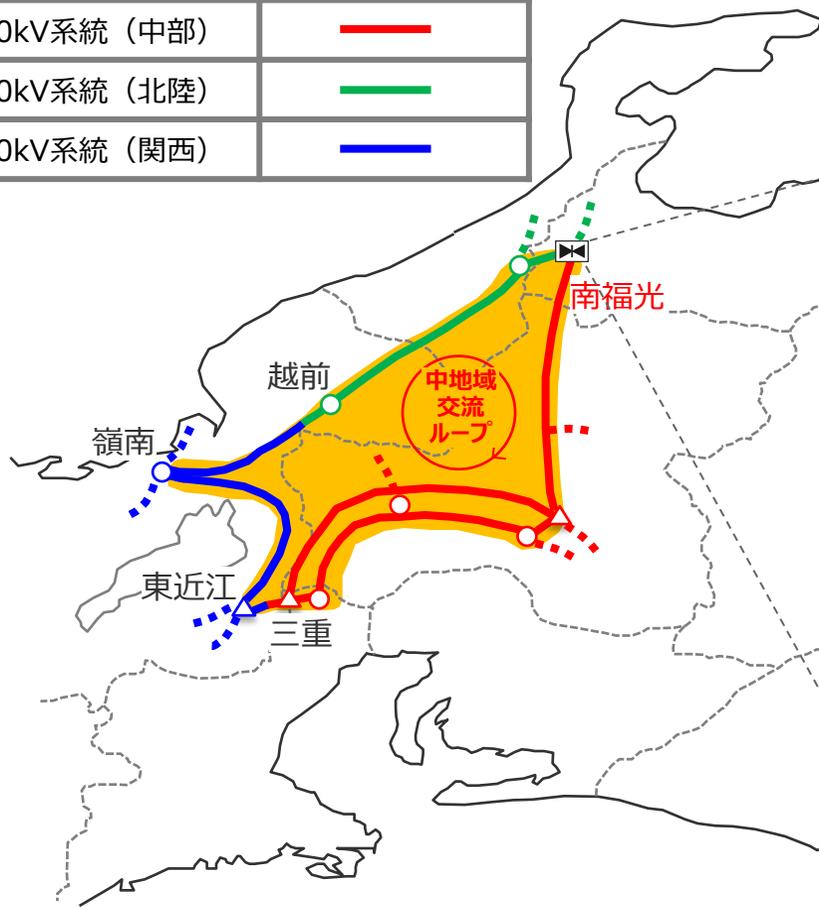
関西電力送配電

power with heart

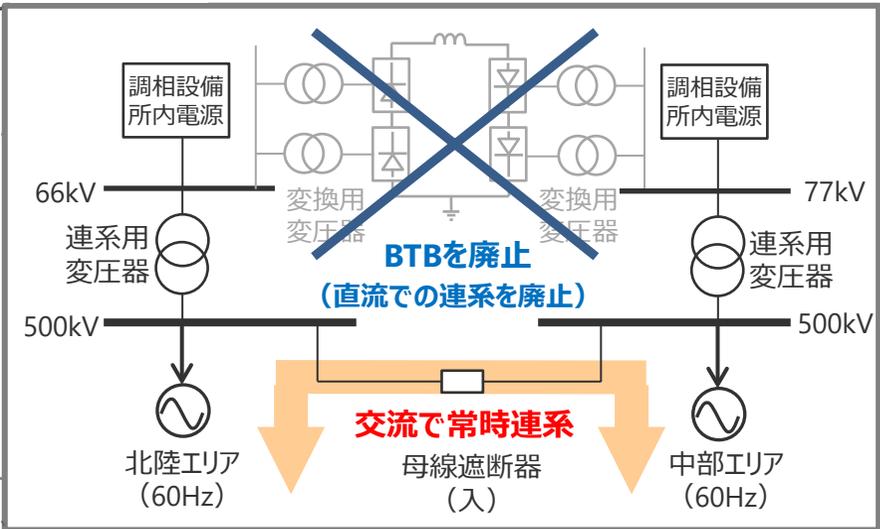
中地域交流ループの概要

- 中地域交流ループは3社の500kV系統を交流で環状に常時接続することで形成される。
- 南福光連系所のBTB（直流での連系）は中地域交流ループの運用開始にあわせて廃止する。

500kV系統（中部）	
500kV系統（北陸）	
500kV系統（関西）	



南福光連系所の設備形成最適化のイメージ

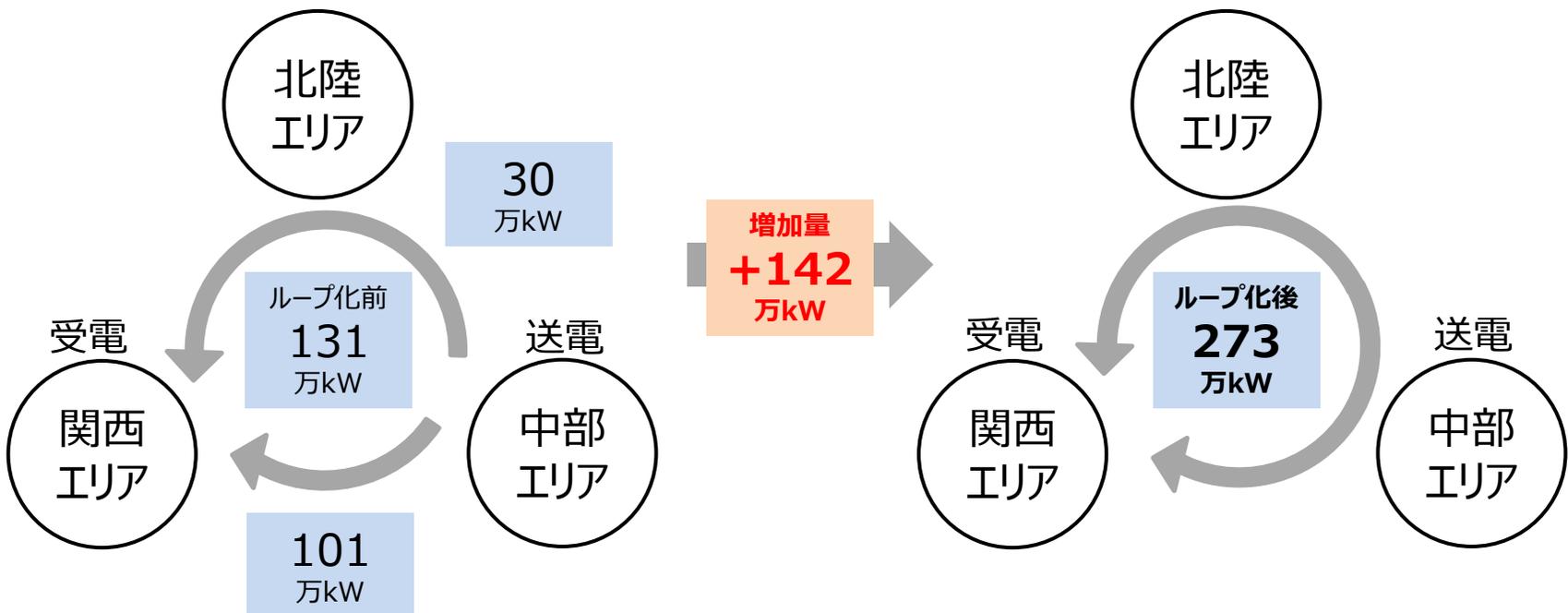


凡例
 ○：変電所 △：開閉所 ◄►：連系所

中地域交流ループ化によるメリット

- 中地域交流ループの運用開始により、3社間を結ぶ交流送電ルートが1ルートから2ルートに増加し、運用容量（電力の輸送可能量）が拡大するため、2026年8月の平日昼間帯においては、エリア間の受電可能量は20～140万kW程度増加する。
- また、3社間の交流送電ルートの2ルート化により、エリア間の送電線事故時においても、別ルートを紹介した送受電が可能となるため、停電等のリスクが低減され供給信頼度向上が図られる。

（具体ケース） 関西エリアの受電可能量（中部エリア→関西エリア） [2026年8月平日昼間帯の場合]



※2026年8月の平日昼間帯のうち、受電可能量の増加が最大となるケースを記載。
他のエリア間（関西→中部、中部⇔北陸、北陸⇔関西）においても同様に運用容量が拡大。